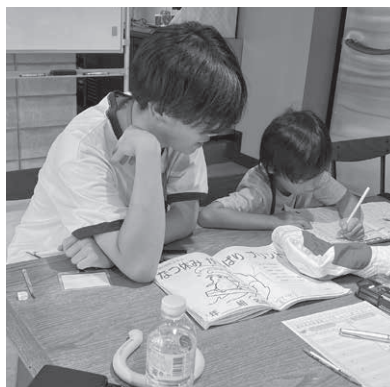




賛同企業（順不同・取材当時） 三島硝子建材㈱・マツヤ産業㈱・㈱松下工作所・㈱協立化工業・有カワチ
東宝化成工業㈱・マネジメントサロン治・㈱宮田運輸・マテックス㈱・㈱かんぽ生命保険

見守りと学びで子どもの未来を支える

企業版こども110番の家 〴〵てらこもんず〴〵

東大阪市内の企業が主体となって学校や地域住民をつなぐ取り組み「てらこもんず」は、三島硝子建材㈱をはじめとする市内企業が自社の一角を開放して運営する企業版の「こども110番の家」である。

この取り組みは2025年8月に始まるが、そのきっかけは二つの出来事であった。一つは、社員の娘が不審者に遭遇し、その恐怖から塾に通えなくなり、送迎のため社員が早退を余儀なくされたこと。もう一つは、個人宅が中心の「こども110番の家」では、家主の不在などで十分に機能していない現状を知ったことだった。そこで「企業であれば営業時間内は子どもを一時的に保護できる」と考え、地域の教育機関とも連携しながら活動を開始。

毎月第一土曜日に三島硝子建材㈱の3階を開放し、大学生ボランティアや教育委員会とも連携しながら、工作を中心としたワークショップや地域の子どもの誕生日会などを開催している。また、夏休みには地域の起業家や講師

を招き、自身の経験や仕事を伝える特別授業も実施。子ども達が新たな興味や学びに出会う場となっている。

現在は賛同企業10社の協力により、布施をはじめ、西堤や柏田、意岐部へと活動校区が広がっている。

「目標は東大阪市内全51小学校区への展開です。子ども達が安心できる居場所を作り、大人と子どもが自然につながる温かなまちづくりを目指します」と発起人である三島社長は将来を語る。「てらこもんず」では活動に賛同し、地域の子どもの居場所づくりに協力してくれる加盟企業を募集している。



「てらこもんず」という名は、「寺子屋」と共有を意味する「コモンズ」に由来し、地域の情報を多世代で共有し、地球（テラ）規模で共に生きようという思いが込められているという。